

競技・審判上の注意

1. 本大会は、令和4年度（公財）日本バドミントン協会競技規則および同大会運営規程並びに同公認審判員規程により行います。
2. 審判は、すべて大会本部にて行います。線審については、準々決勝までマッチ（試合）において2名線審で行い、準決勝以降は4名線審で行います。なお、サービスジャッジは決勝トーナメント戦準決勝より配置します。その他のマッチ（試合）においては、原則として配置しません。
3. 予選リーグはブロック戦とし、各ブロック1位のチームが決勝トーナメント戦に進出します。予選リーグにおける順位の設定は以下の方法で行います。
 - (1) 勝敗による
 - (2) マッチ率による
 - (3) 上記(1)(2)が同率の場合、得ゲーム率
 - (4) 上記(1)～(3)が同率の場合、得ポイント率
 - (5) 上記(1)～(4)が同率の場合、直接対決の勝利チーム※ 棄権の場合、記録は残しますが、上記(2)～(4)の計算においてはすべて21対0の2対0で敗戦したものと扱います。
4. 予選リーグの対戦は勝敗に関わらず、すべてのマッチ（試合）を行います。原則2面並行で行いますが、進行が遅れた場合は3面または4面並行で行う場合があります。なお、1対戦のマッチ（試合）順序は、男子単→女子単→男子複→女子複→混合複を原則としますが、混合複に重複する選手がいる場合、順序を入れ替える場合があります。コート挨拶時に両監督に主審より試合順の説明をします。

※ 具体例 Aチーム：同一選手が混合複に出場し、男子複に出場する
Bチーム：同一選手が混合複に出場し、女子単に出場する 場合
< ①女子単→②男子複→③男子単→④女子複→⑤混合複 >
5. 決勝トーナメントは3マッチ先取とし、マッチ（試合）順序は原則、以下の通りとします。

< 男子単→女子単→男子複→女子複→混合複 >

コートを並行して行いますので、マッチ（試合）の順序に関係なく、勝敗決定後打ち切りとします。決勝トーナメントにおいても、予選リーグと同様に、混合複に重複する選手がいる場合、順序を入れ替える場合があります。
6. 予選リーグ、決勝トーナメントともに、同一試合内でマッチが連続する場合は10分間のインターバルをとります。
7. 試合開始予定時刻の30分前にオーダー交換をします。競技の進行を円滑に進めるため、「オーダー交換」「試合開始のコール」等の放送に十分注意してください。両日とも1巡目のオーダー交換時刻は【8：30】です。2巡目以降のオーダー交換については、放送で案内します。
8. オーダー交換は、オーダー交換所で行います。対戦チームが揃ったらオーダー交換を行います。放送で指示した時刻までにオーダー交換所に来てください。
9. 選手および監督・コーチは、試合開始のコール後、直ちにチームでまとまって指定コートに集合してください。コール後5分を経過しても集合が確認できない場合は、「棄権」とみなすことがあります。
10. コートに集合した後は、主審の指示によって直ちに公式練習を始めてください。
11. 各コートに、コーチ席2席を用意します。監督・コーチは公認審判員規程第3条第12項を厳守し、マッチ（試合）にふさわしい服装で臨んでください。対戦中にコーチ席に入ることが認められ

るのは、登録した監督・コーチ・選手のみとします。

12. 各コートのコーチ席の横に、ベンチを用意します。マッチ（試合）のない選手は、自チームの試合をベンチに座って観戦してください。
13. 予選リーグでは、対戦表で名前が上にあるチームが、主審に向かって右側のベンチ（コーチ席）を使用してください。決勝トーナメントでは、トーナメント表の若番にあるチームが、主審に向かって右側のベンチ（コーチ席）を使用してください。
14. マッチ（試合）前の公式練習は、主審の指示により全ての当該マッチ（試合）の前に両チームとも同時に2分間行います。ただし、シングルスの場合は、自チーム選手と練習をしてください。練習球は、各自で準備してください。
15. マッチ（試合）中のけがや病気に対しては、主審が判断します。主審が必要に応じてレフェリー（競技役員長）を呼んだ時は、レフェリー（競技役員長）の判断に従ってください。
16. シャトルは試打してありますので、選択は認めません。また、シャトルの交換については主審が決定しますので、指示に従ってください。
17. マッチ（試合）中の水分補給、汗拭き、ラケットの交換、靴ひもの締め直し等、プレーを中断する場合は、必ず主審の許可を得てください。なお、氷嚢の使用は、インターバル中のみ認めます。
 - (1) ラケット・タオル・水分補給用ボトル等は、コートサイドの各自のバックに収容してください。
 - (2) 氷嚢は、コーチ席で小型の保冷バッグ等に入れ、保管してください。
18. 競技規則第16条7項の規程により、以下のような行為は警告、フォルトまたは失格となりますので注意してください。
 - (1) プレーを故意に遅らせたり、中断したりすること。
 - (2) 故意にシャトルに手を加えたり破損したりすること。
 - (3) 見苦しい服装でのプレー、審判員や観客に対する横柄な態度など下品で無礼な態度や言動。
 - (4) ラケットや身体でコート施設を叩く、耳障りなかけ声や叫び声を発するなど、競技規則を超えた不品行または不快な行動。
19. 審判の判定に「抗議」や「異議」を唱えることは一切認めません。もし判定に対して疑問のある場合には、次のサービスが行われる前に「質問」をすることができます。ここで質問のできる者とは、当該選手と監督に限ります。マッチ（試合）中、インプレーでない時のアドバイスはコーチ席に座って行い、マッチ（試合）中はコートのそばに立ってはいけません。また、監督・コーチが他のコートに移動したいときは、必ずインプレーでないときに行ってください。
20. 競技フロア内での携帯電話等の使用は、一切認めません。携帯電話等は電源を切るか、マナーモードにしてください。マッチ（試合）中のコートまたはコート周辺でのプレーヤーの携帯電話が鳴ったときは、競技規則第16条第6項(4)違反とみなします。
21. マッチ（試合）中にモバイル機器を使用したアドバイス・コーチングは禁止します。
22. マッチ（試合）中の服装は、白または（公財）日本バドミントン協会審査合格品とし、上衣の背面には必ず都道府県名を明示してください。マッチ開始前に大会運営規程第4章第24条に基づきチェックします。
23. 上記の他、監督会議において確認した内容に従ってください。